沖縄復帰50年を振り返る

沖縄あんやたんかんやたん

2007年～2011年編

2022年5月15日で沖縄が本土復帰して50年。復帰からの50年を毎号5年ごとに振り返り、主なニュースや出来事と共に紹介。その当時を知らない人は学びながら、その当時を知る人は「あんやたん、かんやたん（ああだった、こうだった）」と懐かしみながらその時代を振り返ってみましょう！

協力：沖縄県立芸術大学芸術文化研究所 共同研究員 仲村顕

県勢の好成績で沸いたスポーツ！注目を集める沖縄の文化と芸術

2007年から11年の間、今でも語り継がれる大きな出来事といえば、「興南高校の甲子園春夏連覇」が挙げられます。春の甲子園では1999年の沖縄尚学以来、夏の甲子園では県勢初の優勝となりました。この大会で大活躍した島袋洋奨（ようすけ）選手は後にプロ野球入りを果たし、引退後は母校で後進の育成に当たっています。またプロゴルフの世界では、宮里藍選手と宮里美香選手の「W宮里」が好成績を記録するなど、様々なスポーツで県勢の活躍が見られました。

一方、沖縄を代表する伝統芸能「組踊」がユネスコ無形文化遺産に登録され、組踊の世界から人間国宝が誕生。県立博物館・美術館の開館もあり、文化や芸術の世界でも、注目を集める大きな出来事が続きました。

2010年

エースの島袋洋奨投手の好投と強力打線が実力を存分に発揮しました

提供：沖縄タイムス社

興南高校春夏連覇

興南高校が高校野球の甲子園で、1998年の横浜高校以来、史上6校目となる春夏連覇の快挙を達成しました。我喜屋優監督の「逆境を友達に」という指導論も全国から注目を集めました。また、県は同年9月、興南高校野球部に県民栄誉賞を贈りました。

史上6校目の快挙を達成

ここがポイント

そのほか沖縄からの出場校としては、選抜高等学校野球大会（春の甲子園）で沖縄尚学高校が2度（1999、2008年）、優勝しています。

2007年

沖縄の歴史・文化・芸術が一堂に集まる

沖縄県立博物館・美術館オープン

那覇市首里から移設された県立博物館と、新設の県立美術館が併設された複合施設が那覇市おもろまちに開館しました。沖縄の歴史や文化などの研究・調査と地域活性化の両方の役割を担っています。

提供：沖縄県立博物館・美術館

2010年

提供：沖縄タイムス社

沖縄が誇る伝統芸能が世界へ羽ばたく

組踊がユネスコ無形文化遺産に登録

ユネスコは、「人類の無形遺産の代表的な一覧」に組踊を登録することを決定しました。県内からの登録は初となり、組踊は沖縄が世界に誇る無形文化遺産として認められました。

2011年

先端技術で事業を起こすスタートアップの育成にも注力しています

提供：OIST

恩納村で世界最高水準の教育と研究を

沖縄科学技術大学院大学（OIST）が設立

沖縄の自立的発展と世界の科学技術向上に寄与することを目的に政府主導で設立されました。生徒の80%が外国人とグローバルな大学で、シュプリンガー・ネイチャー社の「質の高い論文ランキング2019」では東大や京大を抜いて世界9位に選ばれました。

ここがポイント

2022年10月には、OISTに在籍するスバンテ・ペーボ教授がノーベル賞（ノーベル生理学・医学賞）を受賞して、国内における存在感を知らしめました。

2007年～2011年 その他主な出来事

2007年
- 集中豪雨で安里川が氾濫し、近隣に大きな被害をもたらす
- 沖縄戦の記述について教科書検定意見撤回を求める県民大会が実施される

2008年
- 南米ブラジル・アルゼンチンで県人移民100周年式典開催
- 北京パラリンピックの陸上男子マラソン（車いす）で上与那原寛和氏が銀メダル獲得

2009年
- 琉球ゴールデンキングスがbjリーグ参入2年目で初優勝
- 琉球舞踊が国の重要無形文化財に指定、保持者39人が総合認定される

2010年
- 沖縄本島近海で地震が発生し、約100年ぶりの震度5相当を観測
- 政府は米軍普天間飛行場の県外移設を検討の末、名護市辺野古への移設に再度決定

2011年
- 西江喜春氏が「組踊音楽歌三線」の人間国宝に認定
- 第5回世界のウチナーンチュ大会が開催され、史上最多の7,363人が参加

島の未来を担う、次世代の「ものづくり」

naure（ナウレ）のタヌマオイル

宮古の池間島に防風林として植えられてきた、テリハボクの種子から作られるスキンケアオイル。製造の行程で一切熱を加えていないのでビタミンなどの有用成分を壊すことなく、美しい肌へと導きます。一方、製品づくりを通して、島の自然と人々の暮らしを豊かにすることも目指しており、例えば島内で全ての作業を行うことで仕事を生み出し、地域経済の活性化に寄与しています。また自然落下した種子を使うため、既存の自然に負荷をかけることなく、残渣（ざんさ）は全て畑などの肥料として活用し、廃棄物の減少につなげます。

【問い合わせ】
ヤラブの木
☎0980-75-2501
https://yarabutree.com/
HP

4年ぶり開催へ！むすわ 花と食のフェスティバル2023
令和5年1月21日(土)・22日(日) 10時～17時

4年ぶり開催へ！むすわ 花と食のフェスティバル2023
令和5年1月21日(土)・22日(日) 10時～17時